

わか草



花火を楽しむ夕べ

第48回 平成30年10月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25



花火に大興奮！



(写真右) 花火の前にみんなで
太鼓を叩きました！



花火に夢中♪



手つなぎ花火♪



今年の噴水花火は迫力満点！

今年度の病棟「花火を楽しむ夕べ」は台風の影響で、八月八日の分が二十九日に延期となり、十五日、二十二日、二十九日の実施となりました。二十九日は予備日でしたので縮小する予定でしたが、大勢のスタッフの協力があり、ほぼ予定通りの規模で実施できました。例年よりも若干火力の強い噴水花火を用意していましたので、あちらこちらから興奮の声があがっていました。

通所は八月十七日と二十四日の金曜日に実施できました。十七日は強風でしたので打ち上げ花火はできませんでしたが、乳幼児のご家族も多く参加されとても賑わいのある花火大会となりました。花火大会は天候に左右されますが、少しずつ内容を変えながら夏の風物詩として続けて行きたいと思っています。(療育部)

地域と共に

地域療育支援室室長 堀江 久子

地域療育支援室は文字通り地域支援を目的として、地域療育支援係（医療ソーシャルワーカー、心理）と通所係（看護師、生活支援員）で構成されています。センターの開設からの十二年間は、特に福祉制度の変化も大きく施設中心から地域へという流れの中で、入所されている方だけでなく、地域の障害をもたれている方々への支援が大きな課題となっています。更に、社会的にも問題になっている、発達障害、医療的ケア児の増加、虐待等の問題の最前で奮闘しています。

○ 発達障害児への対応

センターの初診の七割以上の方は自閉症スペクトラムやADHDといわれる発達障害です。センターでは正確な診断、そしてその後の支援を考える上でも、学校や保育園等から、情報収集、評価、診断という一連のシステムで支援しています。その中で、医療ソーシャルワーカーは情報収集、心理等が中心になり評価して、学校等に評価結果や対応方法の助言等をお返ししています。当初はこのシステムに抵抗があり、学校には内緒で受診したい、学校現場でも医療機関のスタッフの介入に抵抗があった事もありましたが、社会的変化や、的確な診断や心理等のスタッフの

具体的な助言等の受診の効果が大きく評価され、受診希望者が増加しています。そのため、学校との連携を一步進め、昨年度より特別支援教室（通級）の先生方と合同研修という形でお互いに学び合える研修を実施しています。

○ 通所施設と地域施設との連携

成人の生活介護の通所では、開設当初より周辺の区の福祉課や地域の生活介護の通所施設と連絡会を開催して、お互いの情報交換をしてきました。その中で要望を踏まえて研修や、地域通所スタッフの医療的ケアの実習等をしてきました。特に、地域施設では看護師が少数スタッフであり、センター通所看護師への相談や情報交換が高く評価されています。現在は更に、センターの医師が巡回で施設を回って生活介護での医療的ケアの支援に発展しました。



このような環境のため、センターの通所の利用者の方の中でも医療的ケアが安定されている方は、併用で地域の通所施設も利用して、センターでは医療的ケアの管理をして、地域通所施設ではセンターでは出来ないような行事等の様々な経験ができています。双方の施設の職員が日常的に情報交換するような関係になってきています。また、地域施設で状態の安定しない方を、センターの通所で新たに受け入れることもあります。今までは卒業後の進路先は固定していましたが、東部地域では状況に応じて相方向に利用できるシステムになってきています。

一方、現在通所の成人定員三十名を四十四名の方が利用され、今後も卒業生を受け入れる必要があります。利用人数の増加は地域での連携やご家族の協力によっても課題が解決できない厳しいレベルになっていきます。

○ 短期入所

在宅生活を継続していくには、短期入所は欠かせませんが、平成二十九年度は延べ一〇二七名の方が利用され、その内、延べ四百九十七名の方が人工呼吸器を利用されており、利用者の重症度が非常に高くなっています。地域療育支援室はその窓口になっていますが、センターの特徴は緊急ケースを可能な限り受け入れるところです。ご家族の窮状をスタッフ全員で理解し、素

早く協力できるこのシステムは誇れるものだと考えています。

センター内の様々なスタッフの協力やご家族の協力により、地域システムが構築でき、様々なネットワークができてきましたが、センター内でのコンセンサスを得て業務を進めるにも、地域の実情を理解し地域機関から信頼を得るにも、一定の時間が必要であり、公務員の異動サイクルではなく、指定管理事業所の職員として、業務を継続できるメリットを痛感しています。

センターの素晴らしさは、今後も社会の変化に応じて、柔軟に対応する姿勢だと考えています。地域療育支援室はその中で、利用者を中心にしながら、社会の変化に応じて新しい考え方を導入しながら、役割を追求できればと考えております。



第四十四回 日本重症心身障害学会学術集会

(東京都・江戸川区)



今回、大会長を務めた
岩崎 裕治 副院長

平成三十年九月二十八日(金) 二十九日(土)の二日間、岩崎裕治副院長を会長として当センターが主管し、上記学会学術集会をタワーホール船堀(江戸川区)で開催しました。岩崎会長による「高度医療と療育」と題する大会テーマを冠した会長講演に続き、特別講演一題、教育講演三題、教育セミナー四題、人工呼吸器、看護の専門性を掲げ

たシンポジウム二件、一般演題二百九十七題、看護研究応援セミナー、ランチョンセミナー五題と多彩かつ有意義な講演、報告が続きました。

二十九日午後には公開セミナーとしてアドバンスト・ケア・プランニングを考えるシンポジウムと、ユニバーサルファッションショー、映画上映が行われました。本学術集会では重症心身障害医療・療育に関わる者として職種によらず知りたい、考えたい、共有したい内容をプログラムとして具現化できたのではないかと思います。熱い思いのセンター職員一同、全国からの一三四〇名もの参加者、文化服装学院をはじめ様々なお立場のたくさんの方々のご協力・ご支援をいただくことができました。



加我 牧子 院長



益山 龍雄 診療部長



藤野 孝子 療育部長



盛り上がったファッションショーのようす

有馬正高名誉院長は、日本重症心身障害学会理事長として小林提樹、大谷藤郎両先生の後を受け三十年間第一線に立ち続けてくださいましたがご希望によりご退任、伊東宗行先生に後を託され、推挙されて名誉理事長にご就任なさったことをあわせてご報告いたします。(加我院長)



三十年間第一線に立ち続けてくださった日本重症心身障害学会理事長をご退任される

有馬 正高 名誉院長

ユニバーサル・ファッションショーに参加して

平成三十年九月二十八日と二十九日に日本重症心身障害学会学術集会在東京の船堀で開催されました。その中でファッションショーが盛大に催されましたのでご報告します。

ファッションショーは療育部担当となり、行事・活動委員会で内容を検討していきました。

モデルは各部署から一名ずつ選出しました。衣装の制作をお願いした文化服装学院が洋服専門で主に女性を対象としている事から女性が四名、男性一名の構成となりました。皆様の希望の衣装制作に向けて、六月十二日に採寸、七月十一日に仮縫い、九月四日に試着を行いました。試着の時点で「すごい」「素晴らしい」と感嘆の声が上がっていました。



ファッションショーは二階南病棟利用者様の開会宣言に始まり、モデルの皆様が大ホールの舞台上に上がって晴れ姿を披露することができました。本人の頑張り、多くのスタッフやご家族の支え、文化服装学院関係者の熱い思いが多くの参加者の心を揺さぶりました。

(療育部)



皆さんと記念撮影

(今回のファッションショーに協力してくれた利用者さんにご両親、服を作ってくれたみなさん)

～ 給食の紹介 (栄養科) ～

<< 「裏ごし」について >>

食材を食べやすくする方法の1つに「裏ごし」があります。

「裏ごし」とは、細かい網を張った器具を通して食材を細かくする調理法です。

食材を裏ごすと、硬い食物繊維が取り除けるだけでなく

- 押しつぶすことで、「切る」とは異なった滑らかな食感に仕上がります。
- 網目の大きさによって、いろいろな口当たりが楽しめます。
- 空気を含んで、食材がふっくらと仕上がります。

当センターのペースト粥は、60メッシュの網でこしています。

ミキサーで攪拌した後に粥を裏ごすと、少し空気を含んだペースト粥が出来上がります。

「うまくつぶれない・力がかかって疲れる」時は

- 食材を軟らかめに仕上げます＝水分を多めに含ませます
- ミキサーやクープにかけてから裏ごします

「網の洗浄が面倒」ですが、

- ブラシを使ったり、湯で浸け置き洗いをします
- 乾燥させる時は、火であぶり残った繊維を焼きおとします

手軽な金ザルの網を使って、「裏ごし」に挑戦してみてもいいでしょうか？



裏ごしのようす

総合防災訓練



搬送訓練のようす (通所にて)

九月十二日水曜日午後二時から、当センター全体を対象に総合防災訓練を行いました。緊急地震速報が入り、直後に東京東部荒川河口付近を震源とした震度六弱の南関東直下地震が起こるという想定で実施しました。

当日の昼には通所と病棟で非常食体験訓練を行い、スムーズな介助ができていました。利用者ならびにご家族の方のご協力に感謝いたします。

今回は、昨今の台風や豪雨災害も視野に入れ、地震後に大雨特別警報が発表されたことにより、一階通所から二階への避難搬送を行う想定を加えて行いました。昨年より迅速に搬送することができました。また、ライフライン停止による人工呼吸器の電源確保のための非常用予備電源への接続及びポータブル発電機作動訓練なども行いました。

訓練終了後の反省会では、雨天時に利用者の方が濡れない対策をどうするか今後の課題であり、また、より複雑な想定にしたことにより、いろいろな課題が見えてきたという意見がありました。

防災訓練時には非常放送が入るなど、ご迷惑をお掛けしますが、災害時に備える大事なものですので、今後ともご理解、ご協力をお願いいたします。(防火・防災対策委員会)



非常食体験訓練のようす

第二十四回 日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会

(宮城県・仙台市)

平成三十年九月八日から九日にかけて第二十四回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会が仙台国際センターで開催されました。今回のテーマは「摂食嚥下の地域リハビリテーション 集い、語り、動く」でした。この学会は、医師や看護師だけでなく歯科医師、歯科衛生士、セラピストなどが一体となり医療技術の向上や学術研究の発展などを目的として開催されました。

特に印象的だった講演は「災害時の摂食嚥下への対応」でした。北海道地震の直後だったこともあり、とても考えさせられました。その他にも教育講演や研究発表を聴きとても学びの多い時間となりました。

(摂食嚥下障害看護認定看護師 宮川)

ムーブメント教育・療法研修会に参加して

(長野県・松本市)

七月二十一日・二十二日、松本市で行われたムーブメント教育療法夏季実践講座信越大会に参加して来ました。松本で開催され始めて二十年という節目の大会で、一日目は記念講演が中心でした。その中の一つ「反応の捉えにくい児(者)に寄り添う関わり」という講座で「療育者の関わり自体が反応の不明瞭さ・明瞭さにつながる環境因子である」という話がありました。自分自身、活動で刺激を入れすぎていないか・利用者ご本人にどんな力を使っておうかという事を意識しているか等、改めて自分の活動中の姿勢を考えさせられる講演でした。今回の学びを、ムーブメント活動だけでなく活動全体に活かしていきたいと思えます。

(三階南病棟 竹内)

国際知的障害者スポーツ連盟 (INAS) 第一回資格認定委員会・ワークショップに参加して

INAS資格認定委員 加我 牧子

二〇一八年七月十八日～十九日INASヨーロッパ大会にあわせ、フランスオリンピック会場ならびに隣接する競技場で各国から約六十名が参加する上記会議に出席しました。

Truffaut 理事長による基調講演後、知的障害者の大会参加資格につきBurns教授を中心に現状と今後についての議論と国際共同研究の紹介と協力量請が行われました。INASでは知的機能、適応能力、発達期に生じるといった知的障害の定義のほかダウン症候群と高機能自閉症群を別枠で考慮する資格認定を試し始めており、知能検査実施でも各国の差異など継続課題はありますが、知的障害者スポーツの重要性を確認し議論を継続することにしました。



INAS第1回資格認定委員会ワークショップにて (加我 牧子 院長)



看護師二十四名、生活支援員五名、サポーターを含む三十名のスタッフと共に、二階西病棟の生活環境を整えて短期や医療の利用者様をお迎えしています。長期入所者は、二十二名ですが、合併症の症状や感染もなくみんなお元気です。

オムツフィターの資格を取得した支援科主任を中心にオムツ改革に取り組んでおり、快適な排泄環境を整えて行きたいと考えています。腰痛予防対策としてはスライダーや可動式XYレールを積極的に活用しています。また、毎日の病棟での活動時間には、今月の

東部あれこれ

七月から九月の話題です。

【七月】

今年の夏は、異常気象による猛暑と豪雨や台風に見舞われました。熊谷

歌”として、毎月季節に合わせた歌をうたっています。月の初めは、覚えるのが難しく、なかなかリズムに乗れませんが、月末のころには、みんな上手に歌えるようになっていきます。テラスには、四季折々の花が咲き、植え込みのオリーブの木は、じっと二西病棟を見守ってくれています。今年もオリーブの実がなりました。収穫の時期にはみんなで一緒に収穫するのが楽しみです。コスモスの花のピンク色と利用者や職員の温かい笑顔にまつまれて毎日明るく、楽しい病棟です。

(二階西病棟 星)

で日本の観測史上最高の四十一・一度を観測したほか、青梅でも都内最高の四十・八度を観測するなど各地で猛暑を記録し、多くの熱中症患者が出ました。また西日本豪雨や異例の逆走台風は、各地に大きな被害をもたらしました。

ました。センターでは異常な天候に留意し、利用者の健康や安全に配慮しながら療育活動や行事を行いました。一日には乳幼児通所の運動会が行われ、ご家族とともに身体を動かして楽しみました。また病棟では、バスハイイクやグループ外出などで楽しい体験をしました。

三十日と三十一日の一日看護体験には高校生と社会人八名が参加し、体験学習を行いました。



【八月】

猛暑が続く中、台風の接近で花火を楽しむ夕べも日程や企画変更を余儀なくされましたが、スタッフの臨機な対応で、無事に楽しく行うことができました。

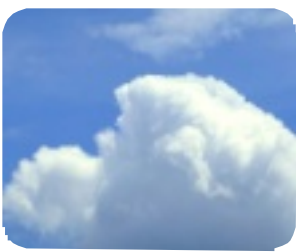
八月から、医学部の体験実習や看護大学、歯科

衛生士学校の実習などの受入れが始まりました。センターでの実習を糧にして立派な専門職に成長されることを期待しています。できれば、是非センターで働いて欲しいと願っています。

【九月】

九月に入りまた災害が相次ぎました。列島を縦断した台風二十一号は各地に暴風・高潮などの被害をもたらし、東京でも交通機関に大きな支障が生じました。

その直後、北海道胆振東部で震度七の大地震が発生し、土砂災害や液状化、道全域での停電など想定外の災害となりました。こうした折、十二日の総合防災訓練では地震と大雨洪水を想定した訓練を実施しました。二重



災害を想定したことで、今後の新たな課題も見つかりました。

九月からは秋の療育活動や行事が本格化し、かもめ分教室でも二学期が始まるなど、センター全体が活気づいてきました。また船堀で行われた学術集会では、利用者様も含めてセンター全体がチームワークを発揮し成功させることができました。



新人紹介

新しく入った職員を紹介します。

- 〈七月〉
看護師 小笠原 巧乃さん
看護師 益塚 朱理さん
- 〈八月〉
歯科衛生士 荒井 奈津子さん
- 〈九月〉
薬剤師 村井 則之さん
- 〈十月〉
看護師 安上 みづきさん
事務 保田 光さん

よろしくお願ひ致します。

【編集後記】

夏の前半はかつてない猛暑が続きましたが、後半になると雨の日が多く、蒸し暑い日が続きました。関西方面では台風による高潮被災、また北海道では大地震による土砂崩れや大規模停電など甚大な被害を受けています。

被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。今回の被害についても、想定を超えた高潮による冠水や大規模地震による怖さを改めて認識させられました。今後とも危機意識を持って暮らすことの大切さを思い知らされました。

←これまでのわか草をご覧になりたい方はこちらからどうぞ

